



みなみやま

発行責任者 / 井手 宏 編集発行 / 愛知国際病院内・病院だより委員会
〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山 987-31 ☎(0561)73-7721

桜

院 長 井 手 宏

今年は、いつまでも寒くて桜の咲き始めるのに時間がかかりました。「まだかな、まだかな」と、毎日病院の窓から桜の木を何回も見ていました。ようやく桜が満開になったとき、とてもところがやすらぎ、そして新たな力がみなぎってくるのを感じました。昨年は、大震災直後で桜の花を見ても辛いばかりでしたが、今年の桜は、明るい明日への夢と希望に満ちているように感じられます。満開の桜の下、うれしそうに歩く新一年生を見ると、日本が国際社会の流れの中にあって秋入学に中々踏み切れないのは仕方がないと思ってしまいます。

さて、散り際が潔いことで、武士道に通ずる桜は、見事なまでにあつという間に新緑に変身します。



しかし、その新緑は魔法の様に突然あらわれるものではありません。満開の美しい花びらの影で、新緑の準備は着々と進んでいるのです。

愛知国際病院も開院して30年が経ちました。この間に世の中が大きく変わり、病院に求められる役割も変化してきました。私たちは、病院の役割という花の下で、新しい病院という新緑の為に準備を進めています。

本当に必要なことが詰まっている病院にしたいと考えています。人生のどんなときにも必要とされる病院、来院したら希望を持つことのできる病院にできればと思います。

みなさまからのご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

健康アラカルト

胃腸の話 59

癌ワクチン療法

一人の免疫は癌を治せるかー

副院長(消化器科) 太田 信吉

最近、子宮がんに対してのヒトパピローマウイルス免疫のワクチン療法が実用化されました。これはウイルスによる発癌の予防を実現したもので、子宮がんの発生を抑制します。いま、ウイルスが原因ではない癌に対するワクチン(ペプチドワクチン)も少しずつ現実となってきています。

癌の治療には、手術、抗がん剤、放射線が一般的です。これらに続く第4の治療法として、免疫療法があります。しかし、免疫療法は期待されながらなかなか実用化に至りませんでした。昔から癌ワクチンは試みられていて、1970年代には癌細胞に放射線をあてて無害化し、それを注射して免疫をつける治療もありました。実際にそれで治った悪性黒色腫の方もおられましたが、治療効果は他の治療と比較すると良くはありませんでした。

最近、色々な抗癌剤治療が開発され、これに分子標的治療薬というものも加わり、治療の難しい癌でも抗癌剤の治療効果が少しずつ上がってきてはいます。しかし、それでも完全に治すことが難しいことには変わりありません。患者さんに抗癌剤治療をしますか、というと「副

作用がいやだし、どうせ治らないのなら抗癌剤治療はやりません」と言われる方もあります。

癌をやっつける細胞に、細胞障害性T細胞というリンパ球があります。またこれを助けるヘルパーT細胞というリンパ球もあり、これらの細胞が癌細胞を認識できれば、やっつけることができることは分かりました。そしてこれらのリンパ球は癌の特徴(ペプチド抗原)をT細胞受容体で認識します。つまり、癌の特徴を見つけ、ペプチドを探し出し、これを用いて免疫をすることで癌をやっつけようというのが癌ペプチドワクチン療法です。そこで期待されるのは、免疫を用いた治療です。現在、癌ワクチン療法として医療保険の通ったものはありません。しかしペプチドワクチンのいくつかのものが治験の段階で終盤に入り、実用化も近そうです。中でも東京大学のペプチドワクチンは、癌の成長に対する免疫をつけ、腫瘍をいわば兵糧攻めにするという、どの癌にも効果が期待できるものです。また、大阪大学を中心とするWT1は、腎がんから見つかった抗原を用いたものですが、こちらもすべての固形癌に対して治験が

試みられています。わたしも少し関わった癌遺伝子HER2のペプチドは、三重大学で乳癌や胃癌などでワクチン療法として試験されています。久留米大学では、前立腺癌に対してのペプチドワクチン療法が行われています。これらは日本で独自に作られたものです。他にもCEA(癌胎児性抗原)に関するワクチン、悪



性黒色腫からとられた MAGE 抗原や NY・ESO・1 抗原を用いたものなど多くのものが試みられています。夢の治療と思われていたものが少しずつ実現しているのです。

自分の免疫力を使って悪い細胞を退治するという理想に近いものですので、これからその試験の成績がでて効果が認められれば、だれでも簡単に受けられるようになるかもしれません。ワクチンによる免疫がついても、それを逃れる癌細胞がいることは容易に考えら

れ、単純ではありません。もう5年程度はかかるかもしれませんが、副作用の少ない治療が提供できる、新しい時代が近いと信じています。

お 願 い

ご不要になった木綿の布（シーツ、タオル、シャツ、浴衣）がありましたらご寄付いただけますか？なお、10cm×15cm 程度に切っていただくと大変助かります。お持ちいただいたときは受付までお申し出下さい。 看護助手より

愛泉館からのお知らせ

今年4月13日で、多くのみなさまのお支えにより20周年を迎えました。今までのご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

18名のスタッフで20年前に愛泉館がスタート、この20年山あり谷ありの時もボランティア、地域のみなさまのお支えにより、多くの困難を乗り越えることができました。

今後とも愛泉館へのご支援、どうぞよろしくお願い致します。

[ボランティア活動にご協力ください]

囲碁・将棋ボランティアをお願いできませんか？ ご利用者で囲碁・将棋をしていただけボランティアを募集しています。

興味のある方は、下記までご連絡ください。

TEL 0561 - 74 - 1711 担当 佐賀・杉山



賛助会員募集のお知らせ

愛知国際病院ホスピスでは、賛助会員を募集しています。アメニティーの充実（施設環境、造園、園芸）、ホスピスでの諸行事、ホスピス相談の充実、広報啓蒙活動、家族会の開催、ボランティアの活動、教育活動のために是非ご協力をお願いいたします。（ご入会いただいた方には年4回の「みなみやま」年2回の「ホスピスだより」をお送りいたします）

入会
方法

下記の口座に会費をお振り込み下さい。

郵便振替口座 00890-5-3757

口座名義 愛知国際病院ホスピス賛助会

一口 1000 円（おいくらでも結構ですが、できましたら5口以上でお願いいたします。）

AHIからのお知らせ

『イラストで知るアジアの子ども』 をご紹介します！

事務局長 林 かぐみ

アジア保健研修所（AHI）では、各国の元研修生からの情報をもとに「アジアの子ども」を年2回発行しています。「イラストで知るアジアの子ども」は、そのバックナンバーをまとめたもの。どんな人たちにどんなふうに読まれているかをご紹介します。と思っています。

●「甥っ子に送りました」

〈ANさん・

さいたま市在住〉

甥っ子たちに読ませたいなと思いました。甥は4人、兄の息子が高校と中学生、弟の息子が中学生と小学生。外国というと欧米諸国に目が向きがちだけれど、身近にも様々な国があること、先進国も途上国も含めて平等に世界を広く見てくれるようになってほしい、その種まきをしたいと思います。途上国は、貧しい、汚い、不潔、と想像しがちだけれども、大らかさだとか、古くから人々が守り伝えてきた文化だとか、たくましさ、したたかさ、という別の物差しもあるということや自分の生活との違いを説教じみないで言



えるといいなと思います。

兄の息子たちはあまり興味を持たず、残念。いつか、思い出して読んでくれればと思っていました。代わりに母が興味深く読んでいました。弟の息子たちは興味を持って、手にとってくれました。まずは、弟が夜の読み聞かせの時間に毎日この本を使ったそうです。特に下の子は、学校で毎朝10分間の読書の時間があるらしく、毎日学校に持って行って読んでいたと聞いています。

●「孫にプレゼントしました」

*いつもクリスマスプレゼントを孫に贈っています。本が好きなので、「おばあちゃんが住んでいる日進にあるところの人たちが作ったんだよ」と言って送りました。世界にはいろんな子どもたちがいることを知ってほしいと思います。

〈AKさん・日進市在住〉

*6年生の孫の誕生日が2月。毎年お誕生日プレゼントは本なのですが、今年はこれにしようと思い送りました。今のところ感想はわかりませんが、時折私もかなわないような理解の仕方をするので、楽しみです。

〈SKさん・名古屋市在住〉

『イラストで知るアジアの子ども』

（明石書店2010年B5版168頁）

書店取り扱いの他、アジア保健研修所（AHI）でも販売しています。1800円（送料込）

初穂の言いたい放題

小児科 井手 初穂

ひとり、2人、3人・・・そして、ゼロ
若い頃、婦人科で診察を待っていたら、隣から声が聞こえました。「日本人のように優秀な民族は増やさなければならぬのだから、ぜひ産んでくださいよ」と言っています。どうやら、予定外の3人目を授かった女性が悩んでいたようです。今から30年ぐらい前のことです。その頃、人口爆発だ、このままでは大変なことになると言って、世界中で子どもの出産を制限する傾向が始まりました。中国がひとりっ子政策を始めたのもその頃でした。日本でも、子どもはひとりか2人。それが主流だった時代に3人目を出産するのは、きっと勇気のいることだったのでしょ。その方は、「だって、3人目なんて恥ずかしいもの」と言っておられました。そういう時代だったので。

私は、2人の子どもに恵まれ、つい最近まで子育ての渦中で無我夢中で日々を過ごしていました。そして、子どもたちが巣立って行った今、ようやく子育てについてじっくり考えることができるようになりました。渦中にいるときは、2人の子育てで目一杯でした。でも、今振り返ると、3人子どもが居るのが羨ましく思えます。3人以上居ると子どものコミュニティーが出来ますものね。兄弟で、プチ社会が形成されますから、自然に切磋琢磨されます。ひとりっ子の子育てをされている方は、きっととっても大変だと思います。親も子も逃げ場がありませんし、親子の

距離感を保つのがとても難しいです。そして、意識して切磋琢磨される機会を作っていかなければなりません。もちろん、何人の子育てが一番良くて、何人子どもがいることがよくないとかということはありません。人数に関係なく子育ては大変なものです。

さて、超高齢社会を迎えて、若い世代が減ってしまうということがどういうことなのかということがだんだんはっきりみえてきました。世の中の男女がみんな必ず結婚して2人子どもを産めば人口はほぼ現状維持、ひとりでは、人口が減ってしまい、3人産んでようやく人口は増えます。一世帯に子どもがひとりか二人というのが主流になった日本

では、ひとりの女性が一生のうちに産む子どもの数を表す出生率が減少して、2005年には1.26まで落ち込んでしまいました。幸いなことにちょっと増加傾向に転じて、2011年は1.39まで回復してきました。それでも、ひとりの女性が生む子どもの平均は、1.39人しかないのです。つまり、2人以上子



どものいる世帯は少ないということなのです。高齢者の比率はどんどん増えて、若者が減ってしまうのです。そんなゆゆしき状況に、さらに追い打ちをかけるような事実があります。子どもはいらないと考えているカップルが思っていたより多いのです。テレビで新築の家を紹介する番組をみていると、「子どもが居るとのこと」を全く想定していない家が増えているのに驚かされます。かつては年頃になったら結婚して子どもを持つことが当然でした。しかし、今は、それは当たり前のことではなくなり、結婚するということは人生のひとつの選択肢になっています。ここ数年、

アラフォーの女性の恋愛ドラマが流行っています。「最後から2番目の恋」「恋愛ニート」なんていうのを最近やっていました。魅力的で有能な女性たちが、結婚という選択肢を選ばなくなってきていることを実感いたしました。男性たちに、「あんな素敵な女性たちを口説けないなんて何をぼやぼやしている、頑張れ！」とエールを飛ばしたくなるのは私だけでしょうか？

健診では、3人目以上の赤ちゃんを連れてくるお母さんが少し増えてきました。私の世代では、仕事を続けようと思うと、ひとりがやっとという場合もかなりありました。私もあの時コウノトリが来なかったら、子どもはひとりだったかもしれません。もちろん、いろいろな事情が重なったり、コウノトリが思うように来てくれなかったりして、子育てを経験できない場合もあります。でも、初めから望んで子どもはゼロという選択をする人が更に増えてきたら、やがて、公園で遊んでいるのはシニアばかりになってしまいます。かつて子どもがたくさんいた時代はおせっかいな近所のおばちゃんおじちゃんも一緒になって子どもを叱ってくれたりほめてくれたりして、子どもから眼を離さないでいてくれまし

た。それが、子どもの数が減り、核家族化して、主に子育ては家庭の中でされるようになると、気楽に相談もできずに、孤独の中で子育てはとても難しいものに変化してきました。だから、子どもを産んで育てることが難しいことになってしまったのかもしれませんが。たくさんの子どもがいて、コミュニティで子育てできたら素敵だと思いませんか？子どもは、コミュニティの宝なのですから！子どもの数は1人、2人、3人って悩んでも、自ラゼロを選ぶことのないように、支え合い、楽しく子育てのできるコミュニティを増やしていける方法はないものでしょうか？



- ・ 4月から、色々な制度が変わっていますが、病院の窓口負担にも変更があります。ご不明の点は会計にお尋ね下さい。
- ・ 「みなみやま」では記事に関するご意見、ご感想などを受け付けております。よりよい紙面作りに努力いたしますのでご指導よろしくお願いいたします。
- ・ 新しくなったホームページはご覧頂きましたか？こちらへのご意見、ご感想もぜひお聞かせ下さい。

これまでお寄せ頂いているご意見・ご感想、大変感謝致しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

宛先は

〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山 987-31 愛知国際病院内「みなみやま」編集部
電子メールの場合、アドレスは m.kondo@aisen-kai.jp です。お待ちいたしております。

編集長 近藤正嗣